

7%節約のための

「省エネ行動」の基準

我が国では昨年以來、五割の石油消費削減対策を実施してきましたが、このほどさらに二割上乗せした「七割節約」を決めました。

これは今年中に約二千万キロリットルの石油を削減しようというものです。石油の消費を七割節約するために私たちがふだんの生活で注意したいチェック・ポイントをいま一度確認しましょう。

テレビがつけばなしになっていませんか

見ていない時のテレビは、必ず消しましょう。また、スイッチを入れるとすぐ映像の出る瞬間受像式のテレビは、スイッチを切っても電流が流れていますから、外出やお休みの前にはコンセントを抜きましょう。

冷蔵庫の置き場所は適正ですか

冷蔵庫の背面は、少なくとも壁から十センチ以上離して置いてください。できれば、左右も同じように間隔をとり、風通しをよくしてください。また、日の当

たるところや、ガスコンロのそばなど熱気のあるところは避けましょう。

洗たくは上手にやっていますか

すすぎの前に一度脱水しますとあわきれもよく、すすぎの間も短くて済み、それだけ電気の節約になります。また、一回のせんとく量を、過不足なく適当にまとめるのが上手な洗い方のコツといえます。



掃除機にゴミがたまっていますか

集じん袋にゴミがたまると、吸引力が弱くなり、掃除の時間が長くなり、それだけ余計に電気をくいます。掃除の前には必ず、掃除機のゴミを捨てましょう。

ガス湯沸器の口火はつけっぱなしになっていませんか

口火のつけっぱなしは、エネルギーのムダになるばかりか、防災の面でも危険です。口火はそのつど必ず消してください。

風呂は、家族がまとまって次々に入るようにしていますか

家族がばらばらに好きな時に入浴すると、そのつどお湯を沸かし直さなければ



ならず、それだけエネルギーを多く使うこととなります。入浴は、家族の方がまとまって、一定の時間に済ませるようにしましょう。

あかりはこまめに消していますか。ほこりなどたまっていませんか。

使わない照明は、こまめに消しましょう。とくに事務所などでは、昼休みの消灯に心がけましょう。また、照明器具は、いつもきれいにしておきましょう。ほこりがつくと、照明効果が落ちます。

省エネルギー

5%から7%へ



石油の節約策が強化されました

民話



三ヶ村の養子取り

上益城郡矢部町

林 駿一

昔三ヶ村の庄屋さんの家に、とてもきれいな娘さんがおられました。一人娘なので養子をとらなければならぬが、どうしてむこを選ぼうかと、父親の庄屋が考えた末にある日、村内に次の様な立札を立てました。

「私と話を三荷した者は、うちの娘の養子にする」ということです。さあー大変な騒ぎとなりました。

庄屋さんは、当時村の最高位の人で住居も大きく、そして娘さんが絶世の美人とされているからたまらない。付近の村からは勿論のこと、矢部手永や御船手永中からの青年達が、この金的を射止めようと毎日黒山のようにおしかけました。

しかし、くる人もくる人も庄屋さんと話して「一荷の話」も出来ないで、頭かきかき帰ってゆきました。一荷の話というのは、話の内容を荷物に例えたもので、重い荷物を前と後にして天秤でな

うように!!即ち豊富な話が出る人ということ。

さて数日後、一人の浪人風の武士が訪れました。「たのもう!拙者はこの村に立っている表札を拝見いたしたが、あの文句に相違ござらんか」と庄屋さんに尋ねました。

庄屋さんは「はい、私と話を三荷された方ならば、娘の養子にいたします」と答えました。

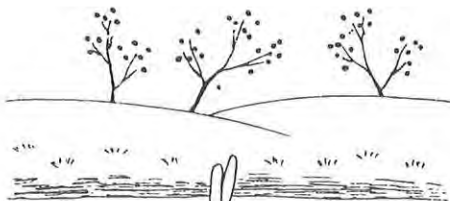
さあー二人は向い合って、話を始めました。庄屋さんは「先づー第一の話は、何からされますか」といわれて、浪人は「天と地の話はどうだろうか」庄屋「なるほど!それでは天秤はどうされますか」浪人「雨ではどうだろうか」庄屋「これは結構ですな」

庄屋「第二の話は何をなさいますか」浪人「海と山の話をいたそう」庄屋「天秤は何にされますか」浪人「その天秤は大地では如何だろうか」庄屋「これは見事ですな!それでは、第三の話は何にされますか」浪人「左様、娘さんと拙者の話は何だろうか!天秤の話はもうせんでもよいだろう」

この話を聞いて庄屋さんは「私はあなたの才知に負けました。約束通りどうか娘の婿になって下さい」と頭を下げました。

美男で才知のある武士に、娘とて何の不服がありません。二人は仲の良い夫婦として幸福に暮らしたそうです。

河川を大切に



「川」という言葉から、どんなイメージを浮かべますか。

満々と水をたたえ悠然と流れる川、また最近では、ともすれば汚れてきたない川を想像されるかも知れません。

川は私たちの生活にはなくてはならない大切なものです。大量の雨水を安全に流下させて水を防ぐことはもとより飲料水、工業用水、農業用水として必要な水を供給するなど、昔から計り知れない恩恵を受けています。

また、魚つり、川遊び、川べりでの草花つみ、昆虫採集など自然に親しむ場を提供してくれるほか、河川敷や堤防の土手を利用して作られる広場では、スポーツが楽しめるなど、憩いの場所としても私たちの生活には欠かせないようになり

しかし、一方で、この川にも都市化の波が押し寄せてきて、暮らして直結する川の面影が薄れてきていることも事実です。たとえば、川の水が汚染され、魚の姿をみることでできなくなった川。

この「母なる川」を汚すことは、すなわち私たちの生活自体を汚すことにつながるのです。

私たちの生活に潤いを与えてくれる水と緑のオープンスペースは、なんととしても私たち自身の手で守り抜きたいものです。